

2021年度

テレビ長崎 番組審議会概要

第556回番組審議会

第556回番組審議会は、2021年4月14日 テレビ長崎で開催され、下記番組について審議した。

『Lovebaby 子育てと新型コロナ』（テレビ長崎制作）

放送日時 2021年3月27日(日)15時25分～15時55分

出席委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文
田崎 智博
柴田 守
石川 由香里
近久 宏志
大川 綾
内田 輝美
相本 倫子
以上 8名

欠席委員（順不同・敬称略）

なし

審議番組は、KTNが局キャンペーンとして展開している「Lovebaby」の一環として制作され、プロデューサーを務めた増田朋和編成局長は、「今回は、新型コロナ禍においての子育てを考えてみるということ、どのような取り組みが行われているかということについて、一つの気づきの導入としてお伝えしたかった」と説明し、報道制作部の増田潤一郎ディレクターは、「子供たちの生活にコロナがどういった影響を与えているのか。こういった体制を整えれば子供たちが元気に過ごしていけるというところを、説明、紹介したいと思い取材を進めた」と述べ、渡海竜馬ディレクターは、「一つの内容にしても、視点を変えた取材をもう少し行いたかったという思いは正直ある」と述べた。

審議の概要（委員からの主な意見）

『Lovebaby 子育てと新型コロナ』（2021年3月27日(日)放送）について

- ・「誰に何を伝えたい番組なのか？」と思った。お母さんたちの不安な声が番組からは、聞こえてこなかった。アナウンサーが、言葉でまとめたという感じだった。
- ・紹介されている取り組みは、コロナ禍だからというわけではないように感じた。そもそも出産や子育てに不安はあると思う。「with コロナ」の状況での子育てにもっと踏み込んでほしかった。また、県や市など行政のサポート情報を伝えたほうが良いと思った。
- ・番組で紹介されていた取り組みは、広く応用できそうで、様々な活動や挑戦から、コロナ禍でもやれることはあるという勇気をもたらした。情報提供の意義はとてもあると思う。
- ・「こういうことをやっています」「ああいうことをやっています」というよりも、どのような失敗があり課題を乗り越えたのかを伝えなければいけないと思う。特定の施設の宣伝のようなパートが必要なのか、疑問を感じた。
- ・「それだけ…」という感じがあった。発見もなかった。もっと先に進んだ問題提起があってもいいと思った。番組進行役についての冒頭の紹介やコメントで「子供がいる」「出産、育児をしたいと思っている」とするのは、そうでない視聴者は、この線から入ってこないでね、というように感じてしまう。
- ・子育てをする側の不安、コロナ禍で何がどう変わったのかからスタートしたほうがいいと思った。一つ一つの事柄をもう少し掘り下げることができたのではないかと感じた。

第 5 5 7 回番組審議会

第 557 回番組審議会(2021 年 5 月 12 日)は、新型コロナウイルス感染拡大が続いていることから、委員全員が集まったの会議を開催せず、各委員がレポートを提出する「書面審議」とした。

「マルっと！」 (2021 年 4 月 28 日 (水) 16 時 50 分～19 時 00 分放送)

出席 (レポート提出) 委員 (順不同・敬称略)

菊森 淳文 田崎 智博 柴田 守 石川 由香里 近久 宏志 大川 綾 内田輝美 相本倫子以上
8名

欠席（レポート未提出）委員（順不同・敬称略） なし

審議の概要（委員からの主な意見）

「マルっと！」(2021年4月28日(日)放送)について

- ・スタジオのセットの印象が、リニューアル前のバラエティ番組のようなものから、ニュース番組的なものになり、見た目の安定感がある。
- ・男性気象予報士が番組全体を通じて参加し、コメントをする形を「マルっと！」の特色の一つとするのであれば、それもよいのではないかと感じた。
- ・「新型コロナウイルスの疑問に答えるコーナー」は、緊張感が緩みつつある時期にタイミングよく専門家を迎え、直接回答してもらおうというベストな企画で、とてもわかりやすい説明だった。
- ・娯楽要素のものからニュースまで幅広い構成で見ごたえがあった。
- ・「大原さんのてくてく御朱印散歩」のコーナーは、大原さんの出会った人との会話などが、ゆったりほのぼのした時間を演出することにつながっていたと思う。地図で歩いた道を振り返る構成も親切だと感じた。
- ・「新型コロナウイルスの疑問に答えるコーナー」について、内容については目新しいものがなく、単に市民への行動自粛を促す内容にとどまっていたのが残念。医療の専門家からしか聞けないような話というものがあるはずだと考える。
- ・「大原さんのてくてく御朱印散歩」のコーナーは、タイトルに「御朱印」とまで入れているので、冒頭で、御朱印とは何か？の説明が毎回あってもいいと思う。
- ・情報番組のコーナーのロケは、「不要不急」に分類される可能性はないのか、テレビは特別でいいのか、とどうしても考える。番組の後半に「コロナ特集」があり、「ステイホーム」や「いつもの人と過ごすこと」が呼びかけられていることとの整合性は大丈夫なのかと感じた。

また、あわせて書面審議では、新型コロナウイルス関連報道や番組に関しても意見を求めた。

- ・映像の力がものを言うと思う。コロナのいま、長崎のいまを、テレビらしい方法で伝えて欲しい。
- ・番組の価値とは行政からのプレスリリースに対し補足情報をどれだけ上乘せできるのかという点にもあるのではないか。コロナについても、もっと違う報道の形があるように思

う。医療機関や行政の意向に従い、自粛のお願いをすることだけが報道機関の役割ではないと思う。

・困っているが、声をあげることができずに潜在している弱者も必ずいる、その現状を丁寧に描き出して、救援施策につなげるような取材に期待する。

・最近、新型コロナウイルス感染症に伴う偏見や差別への注意喚起が少なくなったように感じる。地域の人との繋がりが強い地方だからこそ、偏見や差別への注意喚起を継続してほしい。

第558回番組審議会

第558回番組審議会(2021年6月9日)は、新型コロナウイルス感染拡大が続いていることから、委員全員が集まったの会議を開催せず、各委員がレポートを提出する「書面審議」とした。

FNS ドキュメンタリー大賞エントリー作品『忘れない～普賢岳噴火災害30年～』（テレビ長崎制作）

放送日時 2021年5月25日(火)19時00分～19時54分

出席委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文

田崎 智博

柴田 守

石川 由香里

近久 宏志

大川 綾

内田 輝美

相本 倫子

以上 8名

欠席委員（順不同・敬称略）

なし

審議の概要（委員からの主な意見）

FNS ドキュメンタリー大賞エントリー作品『忘れない～普賢岳噴火災害30年～』

（2021年5月25日(火)放送）について

- ・番組タイトルの「忘れない」について、シンプルな言葉ですが、「悲劇を忘れない」「犠牲になった人たちを忘れない」「惨事を引き起こした責任を忘れない」などなど、いくつもの「忘れない」を重ね合わせているようで、秀逸だと感じた。
 - ・取材したことのみ、映像があることのみで構成し、ナレーションもナレーションだけの役割を果たし、余計なことを言っていないのが、ドキュメンタリーとして素晴らしかった。
 - ・とても丁寧に作られた番組というのが第一印象。雲仙普賢岳災害の取材をすること自体が、「マスコミによって犠牲になった」という思いを拭えない人々を前に、複雑で難しいことだというのは想像がつく。非難されてきた側として、住民の複雑な心情を誠実に取材しようとしている真摯な姿勢を感じた。
 - ・番組は、「定点」の整備という過程を丁寧に描き出すことによって、結論として、「報道機関による再加害・再被害の防止」という教訓を導き出すことに成功していると思う。
 - ・この地域の外部の人間から見ると、「安中地区」「上木場地区」などの位置関係がわかりにくいので、地図などで紹介してほしいと思った。
 - ・地元住民の感情に真摯に向き合い、30年という長い時間がかかったけれどわたかまりが解けて共に慰霊しようという思いにつながる様子を極めて冷静に中立的に描いているように感じた。30年前の災害を、その後の土地の復興と住民の心理的な変化も含めて忘れないことが大切だというメッセージが伝わってきた。
 - ・番組を見ていて、今でも十分にわからないのは、「なぜマスコミがあえて危険な行動に出たのか？それが住民にどういう影響を与えたのか？」という点。これに対するマスコミからの言葉が今でもないので、「真実」がわからない状態だと思う。それがないと、過去の教訓が生かせず、同じようなことを繰り返しかねないのではないかとの懸念も生じる。
 - ・普賢岳噴火災害から30年という事実、そしてその年を迎えるときに定点周辺の整備が行われたことで、30年という年月が強調され「節目」みたいなものを感じた。私たちが考える「節目」と地元の住民が持つ感覚は必ずしも一致しているわけではないと思うので「節目」というようなものを感じさせない表現をする必要があったのではないかと。
- また、あわせて書面審議では、新型コロナウイルス、ワクチン接種に関する報道や番組に關しても意見を求めた。

・ワクチン接種が終わっても「三密を避ける、マスク、手洗い、うがい、検温」などの生活習慣が求められるが、予防などの意識があまりない人もいると思う。当分「with コロナ」の世界が続くことを知らせる必要があると思う。

・オリンピック開催については、賛否が分かれていると思うが、ニュースではそれを取り上げ、問題点を指摘する一方、スポーツコーナーでは一転して選手の紹介などを報じている様子を見ると、マスコミの「矜持」とは何なのかと思う。

・ワクチン接種の副反応や受けないことのリスクについては、おそらく多くの方が気になっている。わかりやすい解説が必要だと思う。

・ワクチン接種がはじまり、毎日のように注射をする映像が放送されている。針を刺す映像は、視聴していて気持ちのよいものではないと思うし、怖がる子供達も多くいると思うので、注射とは違った映像でワクチン接種を表現できないのかと思う。

第559回番組審議会

第559回番組審議会は、2021年7月14日 テレビ長崎で開催され、下記番組についての継続審議を行い、災害報道についての意見を聞いた。

『忘れない～普賢岳噴火災害30年～』（テレビ長崎制作）

放送日時 2021年5月25日(火)19時00分～19時54分

『災害報道』についての意見

出席委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文

田崎 智博

柴田 守

石川 由香里

近久 宏志

大川 綾

内田 輝美

相本 倫子

以上 8名

欠席委員（順不同・敬称略）

なし

審議の概要（災害報道についての委員からの主な意見）

『忘れない～普賢岳噴火災害30年～』2021年5月25日(火)19時00分～19時54分
について

- ・雲仙普賢岳の噴火災害での災害報道の教訓を今後K T Nの社内でもどのように引き継いでいくのかを考えるべきである。
- ・災害報道の過熱ぶりについては、時に目に余る。被災した人がどのような気持ちで見ているかを考えることが大事だと思う。
- ・災害については、自然災害にしても、人的な要因がある場合にしても、全く同じものではなく、取材について冷静に判断をするための柔軟性を持たせたルール作りなども必要ではないか。
- ・現場の近くにいた一般の方などからの提供映像を使って災害を報道することが増えていると思う。提供映像については、誰がどのような状況で撮影したのかなど、慎重に調べた上で報道に使用すべきだと考える。
- ・雲仙普賢岳の災害報道の教訓は、火砕流の撮影ポイントだった「定点」での過熱報道だけではなく、他にも学ぶべきものがあると思う。定点の問題だけとしてしまうのは寂しいと感じる。
- ・ルールやマニュアルを作ればいいということではないと思う。お行儀の良い報道だけでは、見えないもの、聞こえないものがある。考え続け、悩み続けることが大事ではないか。
- ・マスコミは、防災システムの一翼を担い、大きな役割がある。復興につなげる災害報道であってほしい。

第560回番組審議会

第560回番組審議会は、新型コロナウイルス感染拡大が続いていることから委員全員が集まったの会議は開催せず、各委員がレポートを提出する「書面審議」とした。そして、各レポートを踏まえ、菊森委員長が、総括意見を書面にまとめた。

『伝えたいナガサキ ～被爆76年被爆者とともに～』

2021年8月9日（日）9時55分～11時25分放送

出席(レポート提出)委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文

田崎 智博

柴田 守

石川 由香里

近久 宏志

大川 綾

相本倫子

内田 輝美

以上 8名

欠席委員（順不同・敬称略）

なし

審議の概要（委員からの主な意見）

・全体の構成は、①「被爆者の悲願、核兵器禁止条約、被爆地・長崎は」②「長崎の被爆体験者の救済は...、広島黒い雨訴訟」③「新型コロナウイルスの影響も、変わる継承のかたち」④「平和祈念式典の生中継」となっていた。②については、今年の要素としては必要だったので、番組に取り込まれていて良かった。

・一貫して「被爆の実相の継承」にしぼり、視聴者に考えてもらうテーマ設定が良かった。

被爆者の高齢化の中で、被爆体験をどのように継承していくのか、という重ねられてきた問いと、コロナ禍で活動がままならない状況とが結びつくことによって、逆に新しい被爆体験継承の形の模索が始まっているというように、非常にうまくまとめられていたと思う。

・被爆者団体がなぜ「5つ」あるのか、それぞれの背景の説明があってもよかったかもしれない。

放送時間との関係もあるかと思うが、首相の挨拶まで放送して欲しかった。特に今年は、核兵器禁止条約が発効した年であり、首相がどのような言葉を発するのか、生で視聴したかった。

・「経験していないことを想像する力」は、被爆の継承のみならず、広く教育の目的を捉えていて新鮮だった。壁にぶつかりかねない活動をどのように継続していくか、一つの可能性を提示したところに今年の番組の評価点があったと思う。

・放送を通じて県民や市民の「平和実現に向けた知的想像力」を育むことに貢献する放送局であって欲しいと願っている。10年先、20年先を見据えた番組作りを期待している。

第561回番組審議会

第561回番組審議会は、2021年10月13日 テレビ長崎で開催され、下記番組について審議した。

『わがまま！気まま！旅気分 焼き物の里 ゆたゆた癒し旅 長崎・波佐見』

2021年8月6日（金）19時00分～19時55分

出席委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文

田崎 智博

柴田 守

石川 由香里

近久 宏志

大川 綾

相本 倫子

内田 輝美

以上 8名

欠席委員（順不同・敬称略）

なし

審議の概要（委員からの主な意見）

・楽しく視聴できる番組で、地元の人、県外の人（移住してきた人）が、入り混じって登場しているところが良かった。食事のシーンがいくつかあったが、料理を食べた後の感想の表現（食リポ）が単調だと感じた。

・地区の魅力を伝えていて、ゲストとアナウンサーに好感が持てるとともに、よい意味でのゆるい感じが出ていて良かった。

・コロナの状況での料理の紹介の方法について、もう少し違う方法があってもいいと感じた。実際の食事のシーンではなく、料理だけ見せることも一つの方法ではないだろうか。ゲストとアナウンサーの食事のシーンを紹介するのであれば、パーテーションは必要だと思う。

・何を目的とした番組であるかが、わからなかった。誰に視聴して欲しいのか、何を売り出そうしているのか。旅番組は飽和状態で、新たな価値観を提示してもよいと思う。

・「華がない」「女性におすすめの色は」「女子代表」というようなコメントがあったが、若い女性に対するステレオタイプをテレビが再生産しているのではないか。

・波佐見は、車で行く以外は、交通アクセスがよくないと思うが、アクセスに関する情報が少なく、旅番組として視聴し、初めて歩いてみたいという人には不親切だと感じた。どこで取材をしているのか、知らない人でもわかるような工夫が必要だと思う。

・焼き物の里として紹介するのであれば、焼き物を作る過程の基礎的な知識を視聴者が得られるような説明や構成上の工夫がもう少しあってもよかったのではないか。

第562回番組審議会

第 562 回番組審議会は、2021 年 11 月 10 日 テレビ長崎で開催され、下記番組について審議した。

『マルっと!』（番組内の全国ニュース部分はカット）

2021 年 10 月 18 日（月）16 時 10 分～19 時 00 分放送

出席委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文

田崎 智博

柴田 守

石川 由香里

近久 宏志

大川 綾

内田 輝美

相本 倫子

以上 8 名

欠席委員（順不同・敬称略）

なし

審議の概要（委員からの主な意見）

- ・番組の展開に落ち着きが出てきて安定感もある。ビジュアルも含めて非常に視聴しやすい番組だと感じた。
- ・「DUNK! DUNK! ヴェルカ」のコーナーは、アナウンサー自身も楽しみながら、視聴者に伝えたいという気持ちが伝わってくる生き生きとしたコーナーだと思う。スポーツが好きな人でもスポーツをあまり知らない人でも楽しめる内容だった。
- ・番組の進行役のアナウンサーには安定感があり、好印象を持った。長時間の番組の中で幅広い層の視聴者に多くの情報を発信していると感じた。
- ・天気予報のコーナーが良い。出演している気象予報士の素朴な感じに好感が持てるとともに内容が充実している。
- ・一部のコーナーについては、企業の宣伝のような感じがかった。また、料理のレシピの紹介が雑であると感じた。
- ・言葉の使い方や司法用語に間違いがあった。言葉の細部にもこだわってほしい。

- ・ランキングの紹介があったが、何に依拠している順位なのか、根拠を示すべきだと思う。
- ・VTRなどの紹介中に、画面左上にスタジオの出演者の表情がワイプで入るが、そちらに目線が行き、紹介されている情報に集中できない。
- ・「棚田での稲刈り」のニュースは、農業のサブスクリプションという面でも興味深いニュースだったが、サブスクについての説明が不足していた。

第563回番組審議会

第563回番組審議会は、2022年1月12日にテレビ長崎で開催され、下記の番組について審議を行った。

『わがまま！気まま！旅気分 ～彦摩呂！雲仙！グルメ紀行 ここは食の宝石箱やあ～』

2021年12月22日（火）19時00分～19時54分放送

出席委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文
田崎 智博
柴田 守
石川 由香里
近久 宏志
大川 綾
内田 輝美
相本 倫子
以上 8名

欠席委員（順不同・敬称略）

なし

審議の概要（委員からの主な意見）

・ただ単に「美味しいもの」「新しい店」を紹介する今までの旅番組とは切り口が違い、今回の番組の「食」の取り上げ方は、歴史や人の物語と交錯するような構成で、非常に良かった。

・地元の食材を存分にアピールし、たしかに生産者の熱量が感じられた。彦摩呂さんの食リポは、さすがに上手で、コロナ禍でのマスク会食の仕方も完璧で、さすがにプロだと思った。

・人の歴史を感じるような内容で、人と食がどう結び付いているかを表現している良い番組だった。

食べて、人と会って交流しているところは伝わってきたが、雲仙にあれを食べに行こうという料理は、浮かんでこなかった。本当に行く人が欲しい情報が落とし込まれていなかった。

・彦摩呂さんの地域で頑張っている人への視線が、あたたかいと感じた。

・現地で「おいしい」と言えば、視聴者がなびく時代ではないのではないか、どうやって「おいしい」にスパイスを加えていくのか、エビデンス（根拠）を提示していくことも一つの方法ではないか。

・現在の新型コロナウイルスの感染状況では、なかなか現地には行けないと思う。取り寄せや、遠隔地から現地につながるができる情報も織り込んで欲しかった。

・番組のタイトルにも含まれている「食の宝石箱やあ」は、少し連呼されすぎである気がした。

食に関する番組がこれほど溢れてくると、差別化をどうやって図るのかという視点が大事になってくると思う。

第564回番組審議会

第564回番組審議会は、新型コロナウイルス感染拡大が続いていることから委員全員が集まったの会議は開催せず、各委員がリポートを提出する「書面審議」とした。そして、各リポートを踏まえ、菊森委員長が総括意見をまとめた。

ドキュメント九州『海の墓標』

2022年1月17日（月）15時15分～15時45分

『みじかなナガサキ』

毎週水曜 22時48分～22時54分

・「スマート農林業技術」2021年12月15日(水)放送

・「漁村の未来を考えよう」2021年12月22日(水)放送

出席（レポート提出）委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文

田崎 智博

柴田 守

石川 由香里

近久 宏志

大川 綾

内田 輝美

相本 倫子

以上 8名

欠席委員（順不同・敬称略）

なし

審議の概要（委員からの主な意見）

海の墓標

・第二次世界大戦末期の長崎ゆかりの象徴的な潜水艦と水上特攻艇を扱っていて、おもしろい。特に「伊58」は、五島列島海底探査で発見された希少性があり、ドキュメンタリーとして取り上げる必然性があると感じた。

・戦争を振り返り、戦没者に思いをはせるきっかけとなる番組だった。このような番組を制作していくことは、非常に大きな社会的意義があり、これからも戦争について伝え続けていくという制作側の強い意志を感じた。

・戦後76年が過ぎ、歴史の証言者が去っていくなか、新たに浮かび上がってくる「戦争遺構」もあり、それを未来に向けてどう生かしていくのか、ということが番組のテーマだろうか。潜水艦「伊58」の艦長の遺族や、震洋の元隊員など、まだ語れる人々の生の声を記録できたことも意味がある。

・潜水艦が沈められた場所と「震洋」の訓練場所が同じ長崎県ということ、2021年に「震洋」の新たな写真が発見されたことで、過去の「海の墓標」（潜水艦の話）に無理やり

「震洋」の話しを足した感じがしてならない。「海の墓標」と「震洋」の話しは、別々の番組として制作して放送してほしかった。

- ・24隻の潜水艦についての前半と、震洋を描いた後半とが分離しているように感じた。

- ・ドキュメンタリーの作り手の側には必ず、伝えたい何か、があるはずだと思う。しかし、今回の番組ではそれが何なのか、あまり伝わってこなかった。

- ・最後のナレーションでテーマを収斂させようとしているが、「その姿が伝えようとしているものとは。あの戦争が現代に問うているようです」という締めくくりは、結局、番組を通して何を伝えようとしたのか、伝える努力を投げ出してしまったようで違和感がある。

みじかなナガサキ

- ・テレビの役割は、県民に関心を持ってもらうこと、「つかみ」の部分なので、その役割を良く果たしていたと思う。

- ・ミニ番組ながら、農林水産業におけるAIの活用や地域ぐるみの取り組みなどを分かりやすくコンパクトに紹介しており、第一次産業のイメージが明るくなり、先進的な産業としてみる事ができた。

- ・リポーターを人ではなく、アニメCGのキャラクターとしたことで、説明する人の話しがセリフを棒読みしているかのように感じた。

- ・5分番組なので、紹介で終わってしまうのは仕方ないが、少々中途半端で物足りない。視聴者として誰をターゲットにしているのか、よくわからない。

- ・自治体の広報を誰に届けたいのか（ターゲット）が、決定的に欠如していると思った。県内の人なのか、それも若年層なのか、高齢層なのか、それとも移住希望者など県外の人なのか。

第565回番組審議会

第565回番組審議会は、2022年3月9日、テレビ長崎で開催され、下記番組について審議した。

ドキュメント九州『ふるさとの風景～池島炭鉱閉山から 20 年～』

2022 年 2 月 21 日（月）15 時 15 分～15 時 45 分

出席委員（順不同・敬称略）

菊森 淳文
田崎 智博
柴田 守
石川 由香里
近久 宏志
大川 綾
内田 輝美
相本 倫子
以上 8 名

欠席委員（順不同・敬称略）

なし

審議の概要（委員からの主な意見）

・番組で映し出されているのは、私たちの社会が直面している問題の縮図ではないかと感じた。子供たちが社会性を獲得していく過程が興味深かった。

・取材者の視点の温かさがよくわかった。

・どういう島だったのが、どう変化して、どうなったのかを描ききれていないと感じ、消化不良のところが残ってしまった。取材対象者についても、どういう人なのかを描ききれていない。

・家族に密着していることで、島全体の様子やこの 20 年の変化が見えてこない。説明が足りていないことがたくさんあった。

・「ふるさとの風景」というタイトルの番組だが、街並みや風景の映像が足りていないと感じた。全国各地の過疎化の問題の解決策まで踏み込めれば、番組として良かったのではないか。

淡々と描かれていて、構成は良かったが、「何を伝えたいのか」という思いが視聴後に残った。

・なぜ100人の人が住み続けているのか、もう少し掘り下げて取材することが必要ではないかと思った。テーマ設定は良いが、何を言いたいのかを視聴者にまかせてしまっているように感じた。

・閉山20年の節目であり、期待値が高い番組だったが、結論として何を訴えたいかが見えてこなかった。高齢化のプロセスが見えてこない。そして、島を離れていった人たちは今どうしているのかについても知りたいと思った。